

医療懇話会及び市町村等からの主な意見等及びその対応内容

	頁	意 見 等	対 応 内 容	
医療懇話会からの意見等	第Ⅲ章 第3期計画の目的と目標			①
	38	目的である「自宅で自立した生活がおくれる高齢者の増加＝健康寿命の延伸」について、自宅に限定しなくてもよいのではないか。	「2 計画の目的と目標」における目的を「自宅等」で自立した生活がおくれる高齢者の増加＝健康寿命の延伸」に変更	
	第Ⅴ章 その他			②
	57	「4 地域包括ケアに係る取組」についての文章が、「地域包括ケアシステムとは、高齢者の要介護度が重症になっても、住み慣れた地域で自立した生活を安心して続けることができるよう～」となっているが、矛盾した内容になっているのではないか。	該当の文章を、「地域包括ケアシステムとは、 <u>高齢者が可能な限り、住み慣れた地域で自立した生活を安心して続けることができるよう～</u> 」に変更	
市町村からの意見等	第Ⅰ章 基本事項			③
	8	今後はますます、地域支援事業、地域包括支援センターとの連携が必須になると思われることから、埼玉県の関係機関である地域包括ケア課に対し、各包括支援センターへの協力依頼の強化を計画の中に示すべきでないか。	地域包括ケア部門、保健部門との連携について、計画全体に係る重要なこととし、「4 実施体制・関係者連携 （2）関係者との連携体制」に追加	
	第Ⅲ章 第3期計画の目的と目標			④
	39	市町村における健診結果等の最新値への修正	＜計画の目標値とその項目＞について、現状値の修正に伴う目標値の見直し、修正	
その他の意見等	第Ⅳ章 個別事業			⑤
	42	「1 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の推進」についての文章に、フレイル、サルコペニアが並記されているが、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの概念について確認したい。	ロコモティブシンドロームはフレイルの中の身体的なフレイルに含まれ、サルコペニアはロコモティブシンドロームの中で運動器の障害の中の1つと位置付けられていることから、該当の文章から「サルコペニア」を削除	

	44	厚生労働省より、個別事業（一体的実施）の評価指標例の提示	「第Ⅳ章 個別事業」における「１ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の推進（１）市町村の一体的実施の取組支援」のアウトカム評価指標「１ハイリスクアプローチに関する評価指標【低栄養】【口腔】【重症化予防（その他）】に「１年後の要介護認定の状況」を追加	⑥
	49 54	血清アルブミンは低栄養の状態を評価する上で有効ではあるが、検査は侵襲的なものであり、アルブミンの低下は脱水やその他の疾患でも起こりうるため、介護予防事業では対象者基準の項目から外れている。血清アルブミン値の数値だけで低栄養の評価を判断するのは避けるべきではないか。	「第Ⅳ章 個別事業」における「３ 健康診査・歯科健診（１）健康診査の実施」及び「５ 市町村との連携・支援（２）市町村の健康増進事業への経費補助」の評価指標から「補助金交付市町村数（血清アルブミン）」を削除	⑦
	51	令和６年度より、ジェネリック医薬品希望シールの作成が廃止となる。	「第Ⅳ章 個別事業 ４ 医療費適正化の推進（２）ジェネリック医薬品の利用促進」における事業概要を変更（シールの作成、配布に関する文章を削除）	⑧